

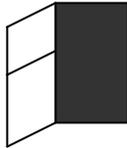


## ケータイ・デバイド

ケータイでのやり取りで気まずい思いをした。重要な会議中に同窓生 A が電話してきた。当方はマナーモードにしていた。会議後すぐケータイで連絡すると、A は「とっとと電話に出ろ！」と怒鳴る。「会議中にケータイで話せないだろ」と説明したが、A は一方的に用件をしゃべって通話を切った。それにしても頼み事を押しつけておいて、なぜ怒鳴る？考えられるのはメールができないことである。ケータイを携帯電話としてしか使わないのではないか。マナーモードも利用してないだろう。

インターネットや電子メールをはじめとする情報技術を上手に利用している人と、そうでない人の間に大きな格差（デジタル・デバイド）があるとされる。置いてきぼりを食うのは高年齢層とされるが、こうした格差はケータイの基本的な使い方にも現れると実感させられた。明日はわが身？

（政策研究室 坂井敏晃）



## 研究室からの風

## 公務員の魅力？市役所で何ができるのか？

就職活動の「早期化」にさらに拍車がかかっている。いまや大学 3 年の秋には、早くも就活戦線が始まっているのである。いわゆる就職協定が廃止されて以降の 10 年間に、約 1 年近くも開始時期が早まったことになる。

この早期化を牽引しているのはベンチャーや外資であるが、大手企業も時期的にそれほど遅延なく戦線に参入する。なぜかといえば、団塊世代の大量退職に伴う新卒採用の拡大で、ここ数年、新卒採用が完全に売手市場になっているからである。

大学の教員としては、3 年後期から就活で講義を欠席することの是非や、内定が出た学生にいかにお勉強意欲を持たせるかなど頭の痛い問題は多いが、市役所にとっても、売手市場・就活早期化は大きな課題を突きつける。すなわち、優秀な人材を確保できるのかどうかである。

強く公務員を志望している学生であっても、友人たちが次々に内定を獲得して喜ぶ状況に心は動揺する。その挙げ句に民間の選考も試してみようとなり、たとえ活動の開始が多少遅れようとも、優秀であればあるほど大手企業に順調に採用されていく。

かくして市役所は、今まで以上に公務員の魅力を明確にアピールすることが求められている。市役所の仕事でどんなやりがい・充実感が味わえるのか、いかなる能力の向上や成長を期待できるのか、公務への従事を志す優秀な学生の真摯な疑問に答えねばならないのである。

（政策研究室 青木宗明）

## 公立教育県

「うちの田舎はどうか」と思わずみてしまう、全国学力調査。都道府県別の平均正答率が出ていて、秋田県の正答率が高かった。先日、新聞を読んでいたら(朝日新聞朝刊：12/19)、秋田県が高得点であるのは、小学校の教員職が人気で、質の高い教員を採用できていることや少人数学級、算数・数学学力向上推進班、教育専門監などの学力向上のための独自の取り組みがあるためという。なるほど景気が悪くなると、教員の質が上がるのかもしれない。もっとも上記の正答率は公立校のみなので、私立校も含めた平均正答率を出すと順位は大きく変化するし、小学校の教職の採用倍率や県独自の取り組みだけでは説明できない県も多くなると思う。これから受験シーズンに入ります。受験生がいるご家庭の皆さまは、風邪などひかぬよう、お体ご自愛ください。

(政策研究室 田中聡一郎)

### 投稿歓迎します！

ニュースレターに投稿してみませんか？藤沢市職員であれば、どなたでも投稿が可能です。本研究室の投稿規定に従って掲載の可否を判断しますので、掲載されない場合もありますが、仕事の中で見つけた大発見や、みんなに知らせたい情報などなど、楽しい原稿（字数は300～700字）をお待ちしています。

## ぼくはくま。名前はまだない。

宇多田ヒカルの歌か夏目漱石の小説のような書き出しだが…

先日、新聞で総合市民図書館のキャラクターのクマちゃん（右）が紹介されていた。結構かわいいクマなのだが、名前がないという（名前をつけてあげたいですね）。ほかにも市内では選挙管理委員会のヒョウ（ひょう太君）、市内では辻堂の湘南銀座商店街のクマ（モーリー君）など、売り出してあげたいキャラクターが市内・市内には結構いる。

キャラクターの訴求力は案外大きい。昨今大人気なのが滋賀県彦根市の「ひこにゃん」（左）。「井伊の赤備え」を身にまといながらも、鏡餅のような、どこかとぼけた感じの白ネコである。彦根城築城400年を記念して作られたキャラクターだが、キャラクター使用料を無料とし地域での幅広い活用で盛り上げようという新しい試みもなされた。キャラクターグッズは飛ぶように売れ、人気は彦根市民に留まらず全国各地に広まった。権利関係などで波紋が起こったことがあったが、それも解決に向かっているとのこと。



2010年に藤沢市は市制70周年を迎える。昨年の政策提案にもキャラクターづくりの提案があったが、是非市民に親しまれるキャラクターを売り出してみたいかがかと。それほどお金がかからずにできる方法もあるであろう。…そういえば「かなべえ」はどこにいったのでしょうかね（笑）



(政策研究室 稲田俊)

## ■ お知らせ 平成 20 年度「職員研究員」を募集します

### 1 制度の概要

若手職員の政策研究能力や政策形成能力等を高めるため、希望するテーマの研究を政策研究室で行っていく制度です。現在の職場に在籍したままで職員研究員としての兼務（併任）辞令の交付を受け、週の半分程度を政策研究員からの支援を得ながら研究に従事します。

2 対象職員及び募集人数： 主査以下の職にある職員 2 人（原則として在課 2 年以上の方）

3 研究期間： 2008 年 6 月 1 日から 2009 年 1 月 31 日までの 8 か月

※ 所属職場には臨時職員 1 名を最長 2009 年 3 月末まで配置することが可能です。

4 募集期間： 2007 年 12 月 10 日(月)から 2008 年 1 月 18 日(金)まで

※ 紙面の関係から、申込方法その他は職員ポータルで掲示した「募集要項」をご覧ください。

(政策研究室 渡辺悦夫)

## ■ 職員研究員の一言 そろそろ各家庭でも本格的な温暖化対策か！

温暖化を止めるには、一週間のうち温室効果ガスを出さない日（呼吸もしない、何もしない）を 1 日設けなければならないと聞いたことがある。そう考えると今の生活習慣の中で削減していくことは至難の業である。

いよいよ来年から 2012 年まで京都議定書の約束である、温室効果ガス 6%削減（90 年比）に向けてスタートとなるのだが、もう既に今月上旬には 2013 年以降の温暖化対策を議論する COP13（国連気候変動枠組み条約締約国会議）が開催されている。さらに、来年 7 月には洞爺湖サミット（環境サミット）が控えている状況である。

このサミットでは、日本は開催国として、現在、温暖化対策で欧州連合に押されている状況を巻き返し、存在感をアピールしたいとの思いがあるらしい。それ故、京都議定書の達成に向けての取り組む姿勢が問われるため、必死に対策が練られるのではないかと思われる。しかし現時点で温室効果ガスは 6%より増えており、約束の期限までに「達成するのはかなり難しい」との声も上がっている。

11 月に IPCC（気候変動に関する政府間パネル：世界の科学者達が科学的な見地から温暖化を証明し、今月ノーベル平和賞を受賞）から公表された報告書の中には、建築部門での削減効果が大きいと指摘し、環境省も住宅・オフィスなどに省エネ型サッシをつけたり、壁・天井に断熱材を使用することで、大きな削減が期待できるとしている。こうした現状を受けて次に目がいくのが、排出量が右肩上がりが増えている業務部門・家庭部門への効果的な削減策の検討となってくる。

2007 年版の環境・循環型社会白書の中に、築 10 年、一戸建てで典型的な家庭（夫婦と子供 2 人）を例に、既存の家電製品（照明類、冷蔵庫など）を省エネ性能の良い製品に買い替え、窓ガラスを断熱性能の良い複層ガラスに取り換えた場合の削減効果が試算されていて、年間で二酸化炭素の排出量が約 4 割（約 2 トン）減少され、光熱費は約 15 万円節約できると記載されていた。このことは、家庭内には温暖化防止に貢献できる大きな可能性を秘めていることを表していると思われる。

温暖化は長期的な問題である。今後の取り組み方によって、大きな影響を受ける事になるのが、我々の孫・曾孫の時代となるため、我々の置かれている立場は重大である。でも、遠い未来の事など「そんなのかんげ一ねえ」と言われる方もいるとは思いますが、いずれにしても、来年には号砲が鳴らされ、目標達成に向けてスタートしなければなりません。

(契約課 平井護)

藤沢市政策研究室  
ニュースレター  
Vol. 25 / 2007 年 12 月発行

編集・発行：経営企画課 政策研究室（本館 2 階）  
TEL：（内線）2173（直通）0466-50-3517  
E-mail：research@city.fujisawa.kanagawa.jp

藤沢市政策研究室ニュースレターは、地方自治に関する最新の情報や政策動向を伝えるため、職員向けに毎月発行しています。掲載した内容は、研究員の個人的な見解です。